

成長と安定配当を実現します

私たちCACグループの財務戦略は、成長に向けた投資と安定的な株主還元の両立です。
ここでは、私たちの財務に対する考え方についてまとめました。

成長に必要な投資を
積極的に行いながら、
安定的かつ
継続的な利益創出

CACグループの 資本政策の原則

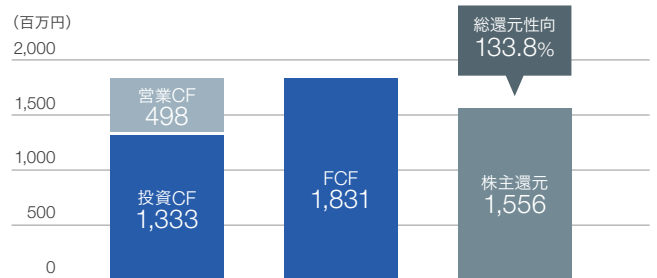
安定的な配当に加えて、
自己株式取得などの
施策を含む
総合的な株主還元を図る

キャッシュ・フローについて

2019年度の営業キャッシュ・フロー（以下営業CF）は、1億円の収入となりました（2018年度は32.8億円の収入）。税金等調整前当期純利益33.6億円、減損損失14.8億円、関係会社事業損失引当金の増加12.2億円などの収入に対して、投資有価証券売却損益51.5億円などの支出がありました。投資キャッシュ・フロー（以下投資CF）は、35.2億円の収入となりました（2018年度は23.6億円の収入）。投資有価証券売却による収入67.3億円に対して、連結範囲の変更を伴う子会社株式取得による支出18.7億円や有形固定資産取得による支出12.8億円などの支出がありました。財務キャッシュ・フローは、63.2億円の支出となりました（2018年度は23.1億円の支出）。自己株式の取得 30億円、連結範囲の変更を伴わない子会社株式取得（ベンチャーキャピタルへの投資等）による支出が15.1億円、配当金の支払7.9億円などの支出によるものです。以上の結果、2019年度末においては、現金および現金同等物は2018年度末に対して27.5億円減少し、89.8億円となりました。

投資CFは企業の買収や投資有価証券の売却などにより、年度によって大きく変わります。過去5年間の平均では、営業CF約5億円、投資CF約13億円、フリーキャッシュ・フロー（営業CFと投資CFの差、以下FCF）は約18.3億円となっています。当社では約18.3億円のFCFに対し、約15.6億円の株主還元を実行してきました。総還元性向は、5年間平均で133.8%となっています。

過去5年間平均CFと株主還元



中期経営戦略に基づく投資について

当社は、東証一部に上場した2000年ごろから積極的なM&Aによる成長を展開してきました。現在の中期経営戦略（Determination21）においても、M&Aや投資、出資を軸とした新規事業や新技術の創出を目指しています。M&Aについては、主に国内IT事業の拡大に資するもの、もしくは中国、インド、ASEANなどの海外現地ビジネスを伸長させる企業を対象として、CAC Holdings内に専門部署を設置して取り組んでいます。2019年10月には今後国内でも普及が進むと予測されているアジャイル開発の実績やノウハウを有するMitrais Pte.

Ltd.の株式を取得し、子会社化しました。（Mitrais Pte. Ltd.については18ページをご参照ください）

そのほか、国内外のコーポレートベンチャーキャピタルファンドから、将来当社の成長に有益と思われるスタートアップ企業に対し2019年度は約15億円、2018年度には約9億円を投資しました。

2020年度からは、投資および財務戦略の構築とその戦略遂行を強化するため、投資財務戦略部を設置し、グループ資産やキャッシュの最大活用を図っています。

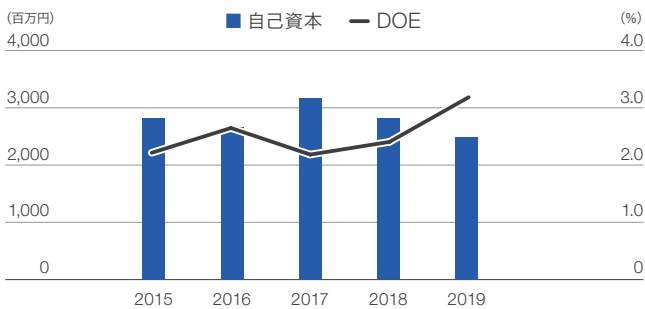
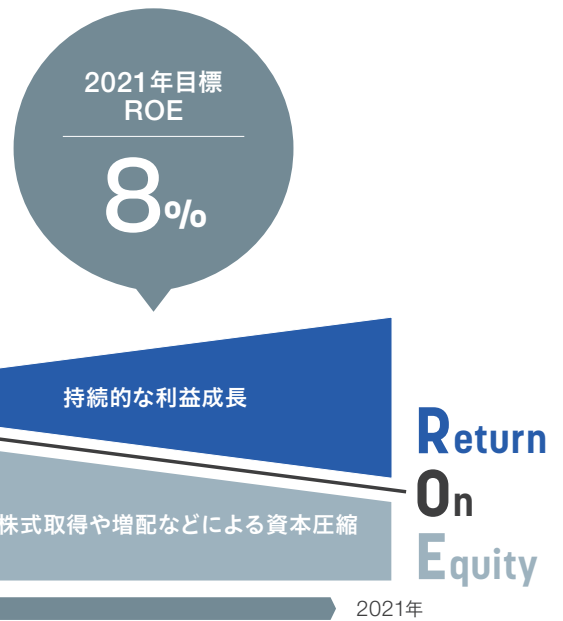
中期経営戦略に基づく株主価値の向上へ向けた施策

資本効率改善と株主還元強化

2019年度から、中期経営戦略のコンセプトに「株主価値の最大化」を加え、資本効率の改善、株主還元強化の施策を基本方針に盛り込み、数値目標としてROE8%を加えました。

この施策を推進するため、2019年度は、1株当たり12円増配の50円とし、約200万株(30億円)の自己株式取得を実施しました。また、自己資本の圧縮も進めており、2019年度のDOE(自己資本配当率)は、3.1%となりました。

2020年度は年間配当予想を1株当たり10円増配の60円としています。今後も目標数値ROE8%の達成を目指し、資本効率改善を図るとともに、株主への積極的な利益還元に取り組んでいきます。



株主還元への推移

